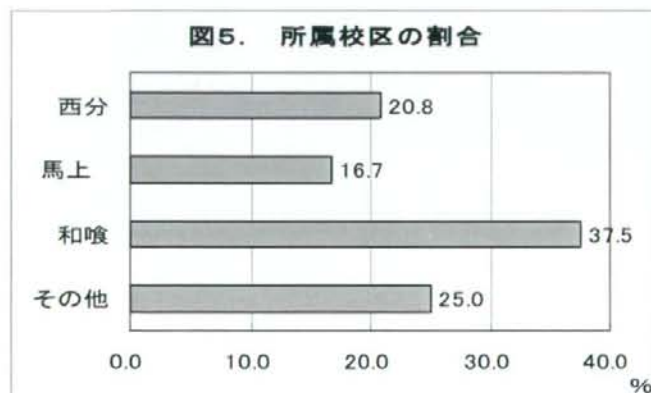


(4) 所属している校区

所属している校区により、回収率、数に違いがみられた。(表3、図5)

表3. 所属している校区の割合

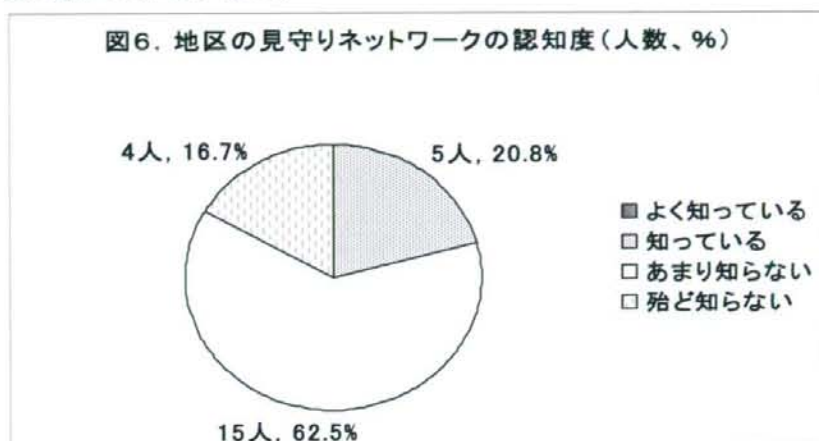
校区名	人数	%
その他	6	25.0
和喰	9	37.5
馬上	4	16.7
西分	5	20.8
合計	24	100



3) 地域内の見守りネットワークの活動内容

(1) 地区の見守りネットワークの認知の程度

地区の見守りネットワークの認知の程度をみると、「よく知っている」が5人(20.8%)、「知っている」が15人(62.5%)を占め、「あまり知らない」4人(16.7%)であった。8割以上が認知していた。(図6)



(2) 地域内の見守りネットワークの活動内容と思うもの

地域での、見守りネットワーク(関係者らの)活動内容と思うものは、見守り活動が最も多く、次いで相談活動、地域包括支援センターや行政機関との連携、高齢者の実態把握であった。また、災害時の対応についても活動内容であると捉えていた。(表4)

表4. 見守り活動内容と思うもの(複数回答)

項目	人数(n=24)	%
見守り活動	21	80.3
相談活動	16	66.7
保健・医療・福祉の情報提供	10	31.1
地域の連携・協力体制づくり	5	20.8
交流の場の開催	5	20.8
勉強会開催	1	4.2
地域包括支援センターや行政等の関係機関との連携	16	66.7
災害時の対応	13	54.2
地域の高齢者の実態把握	15	62.5
その他	0	0.0

(3)見守り関係者の一員として実行している活動内容

見守り関係者の一員として実行している活動内容でも、活動内容と思うもの同様、見守り活動が最も多く、次いで地域包括支援センターや行政等関係機関との連携、地域の高齢者の実態把握であった。(表5)

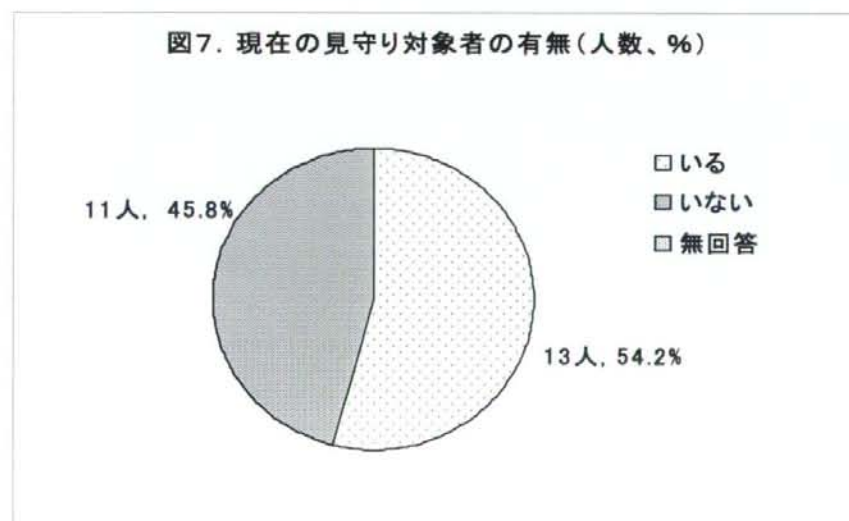
表5. 見守り関係者の一員として実行している活動内容(複数回答)

項目	人数(n=24)	%
見守り活動	17	70.8
相談活動	7	29.2
保健・医療・福祉の情報提供	6	25.0
地域の連携・協力体制づくり	5	20.8
交流の場の開催	5	20.8
勉強会開催	2	8.3
在宅包括支援センターや行政等の関係機関との連携	11	45.8
災害時の対応	4	16.7
地域の高齢者の実態把握	11	45.8
その他	0	0.0

4)見守り活動

(1)見守り活動の対象者の有無

現在の見守り対象者の有無をみると(図7)、「いる」が13人(54.2%)で、「いない」が11人(45.8%)で、対象者がいる者が5割強であった。



現在の見守り活動対象者が「いる」と答えた者を性別にみると（表 6）、男性は 29.2%、女性は 70.8%と、女性の方が男性に比べ見守り対象のいる割合が多かった。

表 6. 性別にみた見守り活動の対象者の有無

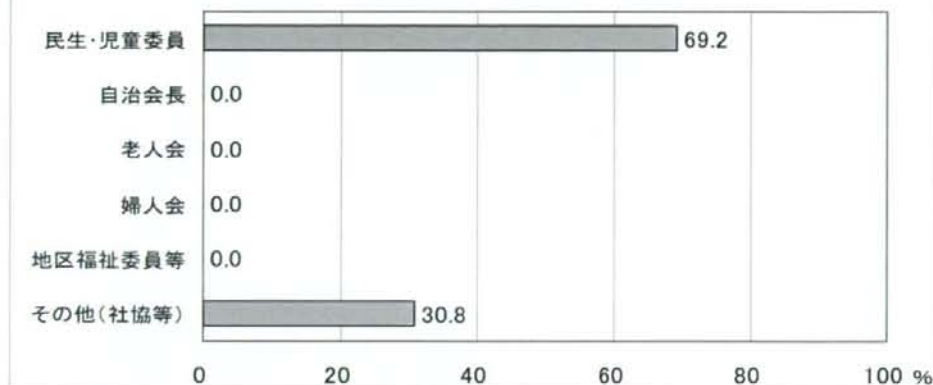
項目	男性			女性			合計	
	人数	性別%	項目別%	人数	性別%	項目別%	人数	項目別%
いる	4	57.1	16.7	9	52.9	37.5	13	54.2
いない	3	42.9	12.5	8	47.1	33.3	11	45.8
無回答	0	0.0	0	0	0.0	0.0	0	0.0
合計	7	100	29.2	17	100	70.8	24	100

現在の見守り活動対象者が「いる」と答えた者で、役職別みると（表 7、図 8）、民生・児童委員 9 人（69.2%）が最も多く、次いでその他（社協等）が 4 人（30.8%）であった。

表 7. 役職別に見た見守り活動対象者の割合

役職名	人数	%
民生・児童委員	17	39.5
自治会長	0	0.0
老人会	0	0.0
婦人会	0	0.0
地区福祉委員等	0	0.0
その他（社協等）	26	60.1
合計	43	100

図8. 役職別にみた見守り活動対象者の割合



所属地区別にみると表8のとおりである。

表8. 所属校区別にみた現在の見守り活動対象者の割合

所属校区名	人数	全体の %
和喰	3	23.1
馬上	3	23.1
西分	3	23.1
その他(村全域)	4	30.7
合計	13	100

(2) 見守り活動の対象者

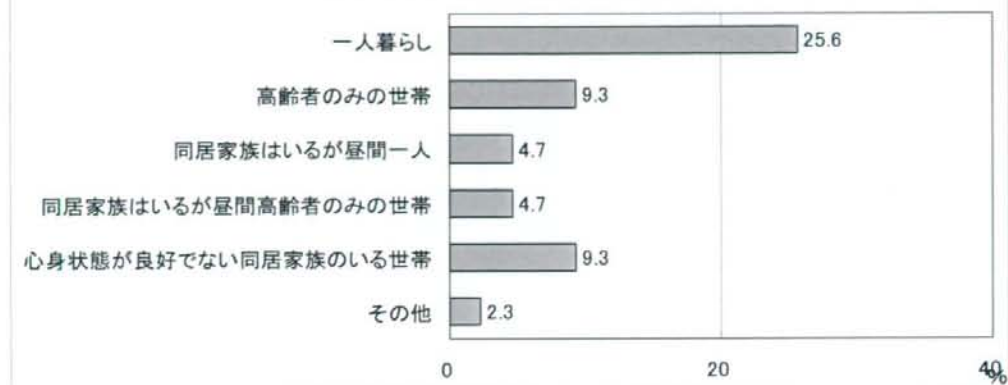
① 世帯

見守り活動の対象者を世帯別にみると(表9、図9)、「一人暮らし」が11人(25.6%)、「高齢者のみの世帯」が4人(9.3%)、「心身状態が良好でない同居家族のいる世帯が独居・高齢者のみ世帯」が4人(9.3%)である。

表9. 見守りしている対象者の世帯(複数回答)

世帯項目	人数	%
一人暮らし	11	25.6
高齢者のみの世帯	4	9.3
同居家族はいるが昼間一人	2	4.7
同居家族はいるが昼間高齢者のみの世帯	2	4.7
心身状態が良好でない同居家族のいる世帯	4	9.3
その他	1	2.3

図9. 見守りしている対象者の世帯



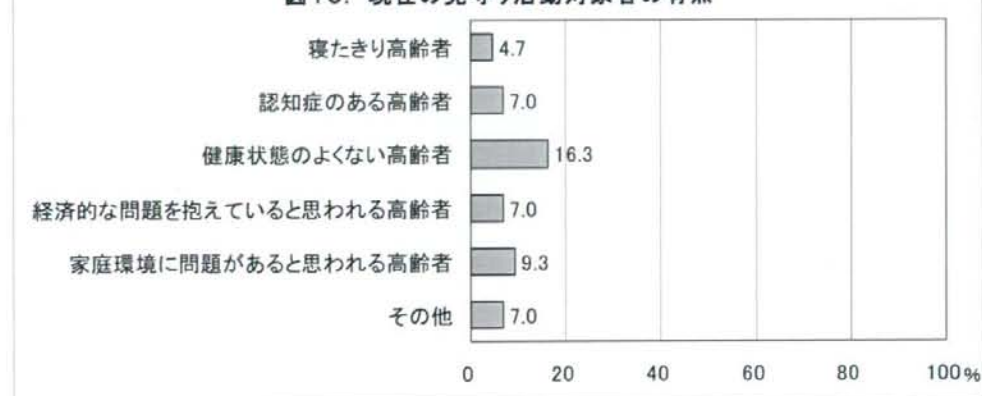
②状態

見守り活動の対象者を状態別にみると（表 10、図 10）、認知症や寝たきり高齢者を含め健康状態が主であるが、経済面・家庭環境の問題のあると思われる高齢者も対象として捉えられている。

表 10. 現在の見守り活動対象者の有無（複数回答）

状態項目	人数	%
寝たきり高齢者	2	4.7
認知症のある高齢者	3	7.0
健康状態のよくない高齢者	7	16.3
経済的な問題を抱えていると思われる高齢者	3	7.0
家庭環境に問題があると思われる高齢者	4	9.3
その他	3	7.0

図 10. 現在の見守り活動対象者の有無

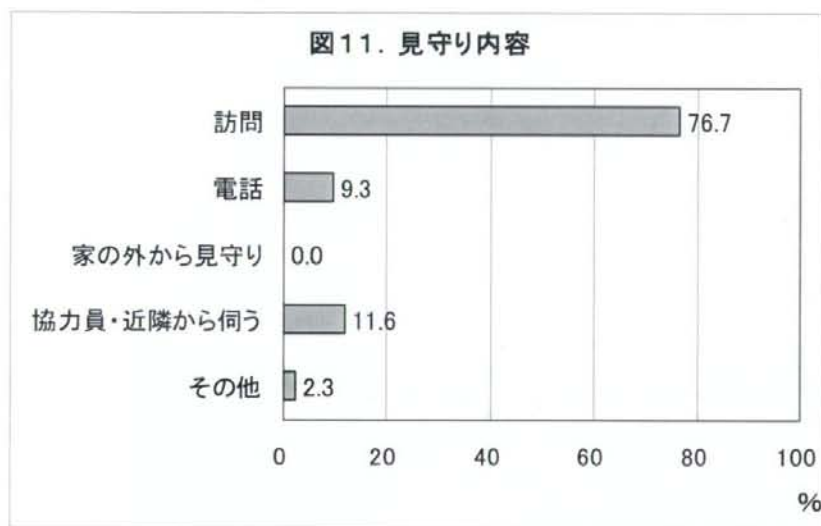


③内容

見守りの内容別にみると（表 11、図 11）、訪問活動が重視されているが、自らの訪問のみならず、近隣等と協同でも行われている。

表 11. 見守り内容(複数回答)

	人数	%
訪問	33	76.7
電話	4	9.3
家の外から見守り	0	0.0
協力員・近隣から伺う	5	11.6
その他	1	2.3



(3) 見守りしている人数と頻度

①人数

見守りしている人数は、5人以下が最も多かった（表12）

表12 見守りの種類別と見守り人数

見守り人数	訪問人数		電話人数		家の外から人数		協力員・近所人数	
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
5人以下	8	80.0	4	100.0	0	0.0	3	100.0
6～10人	2	20.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
11～15人	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
16～20人	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
21～25人	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
26～30人	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
31人以上	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
無回答	0	0.0	82	0.0	0	0.0	0	0.0
合計	10	100.0	4	100.0	0	0.0	3	100.0

②頻度

表13 見守りの頻度

見守り頻度 (1回/日)	訪問日		電話日		家の外から		協力員・近所	
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
毎日	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
2～3日	1	10.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
4～7日	3	30.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
8～10日	1	10.0	1	25.0	0	0.0	0	0.0
11～14日	2	20.0	1	25.0	0	0.0	0	0.0
15～30日	3	30.0	2	50.0	0	0.0	0	0.0
約2ヶ月	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
約3ヶ月	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
約半年	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
無回答	0	0.0	0	0.0	0	0.0	3	100.0
合計	10	100.0	4	100.0	0	0.0	3	100.0

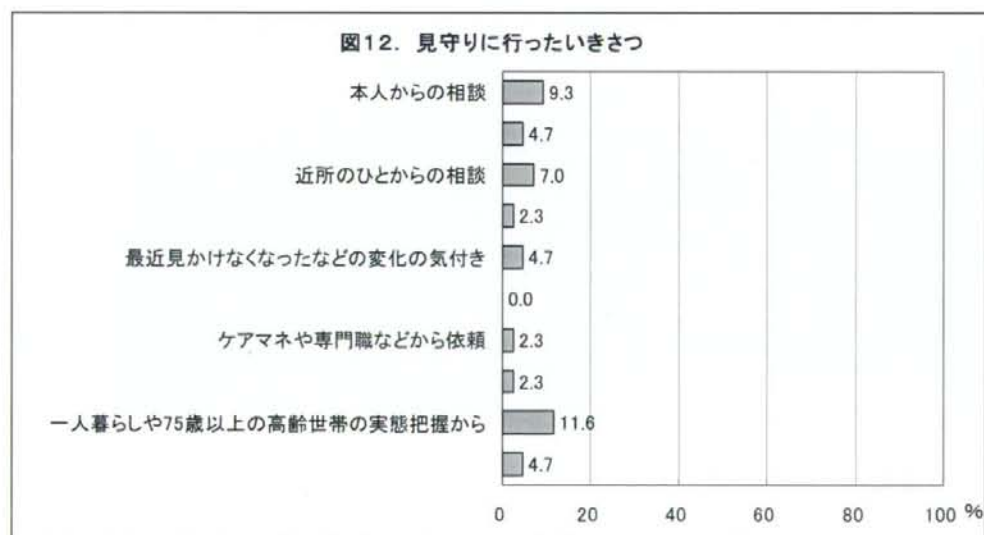
(4)見守りに行ったいきさつ

見守りに行ったいきさつ別にみると（表 14、図 12）、「一人暮らしや 75 歳以上の高齢者世帯の実態把握から」が 5 人（11.6%）、本人からの相談が 5 人（9.3%）、近所の人からの相談が 3 人（7.0%）、同居者からの相談が 2 人（4.7%）と多くみられた。

表 14.見守りに行ったいきさつ（複数回答）

項目	人数	%
本人からの相談	5	9.3
同居家族からの相談	2	4.7
近所のひとからの相談	3	7.0
別居家族や親族等の相談	1	2.3
最近見かけなくなったなどの変化の気付き	2	4.7
地域ケア推進チーム会議の情報	0	0.0
ケアマネや専門職などから依頼	1	2.3
小地域のネットワークから（見守り対象として登録している）	1	2.3
一人暮らしや 75 歳以上の高齢世帯の実態把握から	5	11.6
その他	2	4.7

図 12. 見守りに行ったいきさつ

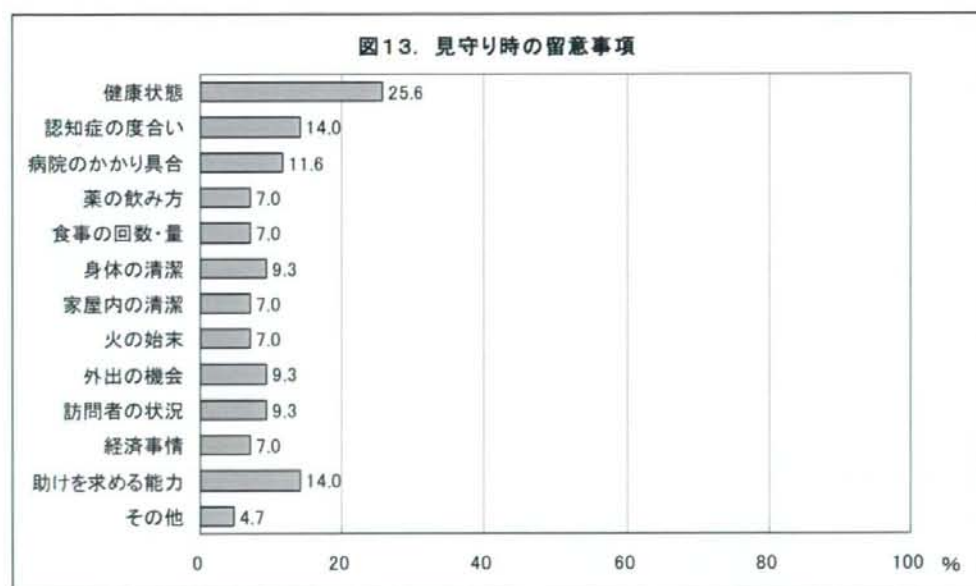


(5)見守りの際の留意事項

見守りの際に注意していることを項目別にみると（表 15、図 13）、「健康状態」が 11 人（25.6%）と高いが、多岐にわたり留意されている。

表 15.見守りの際の留意事項（複数回答）

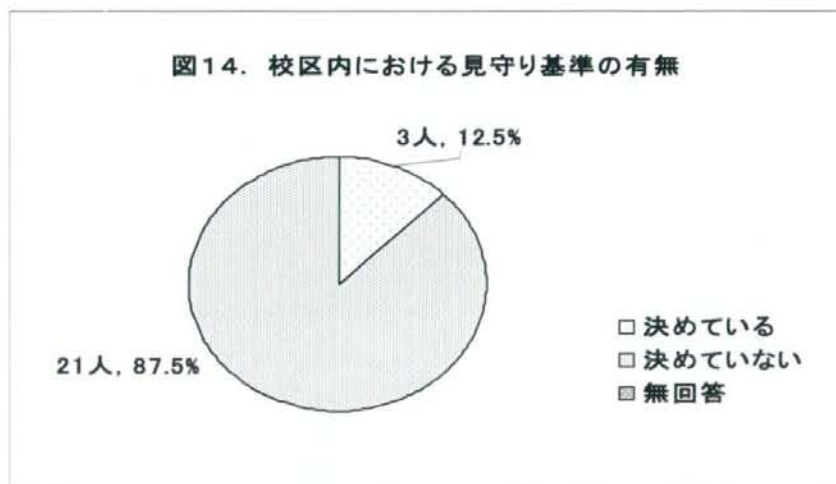
項目	人数	%
健康状態	11	25.6
認知症の度合い	6	14.0
病院のかかり具合	5	11.6
薬の飲み方	3	7.0
食事の回数・量	3	7.0
身体の清潔	4	9.3
家屋内の清潔	3	7.0
火の始末	3	7.0
外出の機会	4	9.3
訪問者の状況	4	9.3
経済事情	3	7.0
助けを求める能力	6	14.0
その他	2	4.7



(6) 校区での見守り基準の有無とその内容

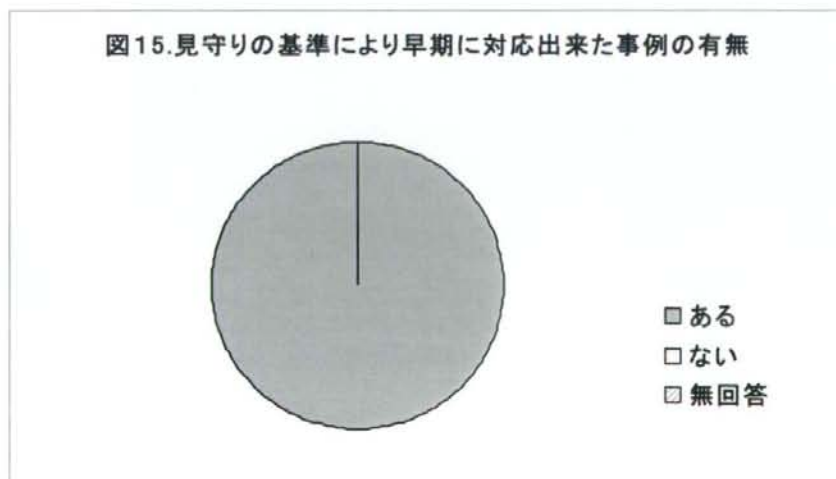
① 有無

校区内での見守り基準の有無をみると（図14）、「決めている」が3人（12.5%）、「決めていない」が21人（87.5%）であった。



② 早期に対応できた事例の有無

校区内における見守りの基準の有無で「決めている」と答えた3人のうちで、見守りの基準により早期に対応出来た事例の有無をみると（図15）、3人とも「ある」（100%）となっている。

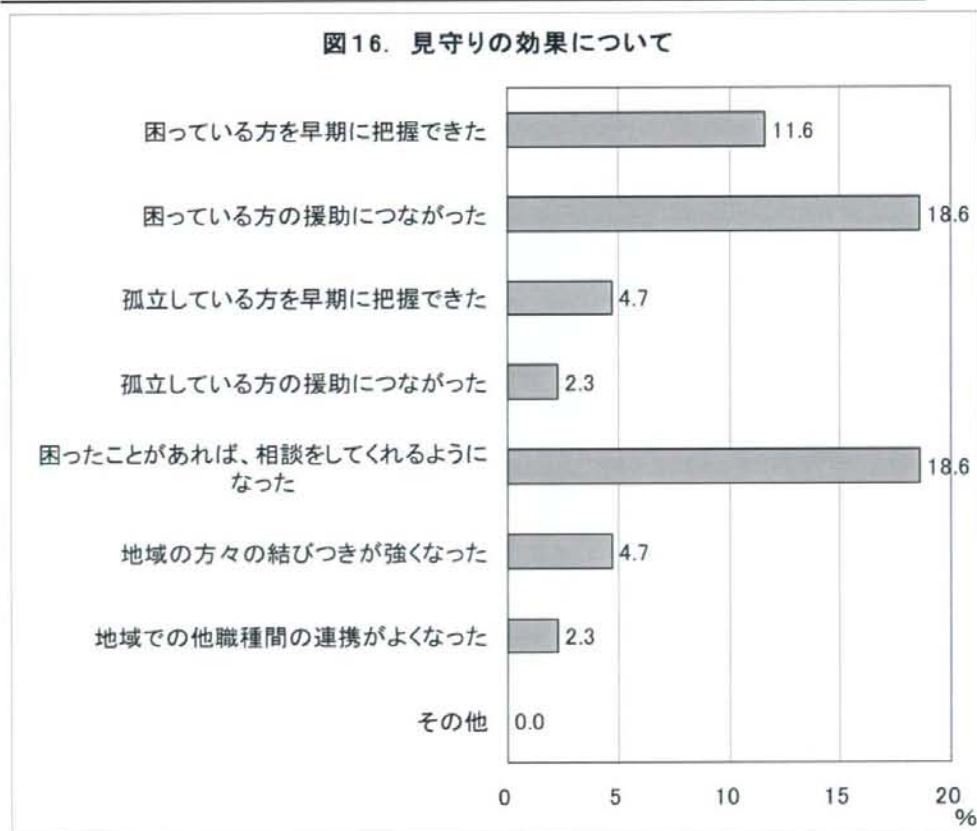


(7)見守りの効果

見守りの効果を項目別にみると（表 16、図 16）、困ったことがあれば、相談をしてくれるようになった、困っている方の援助につながった、困っている方を早期に把握できたが多かった。

表 16. 見守りの効果について(複数回答)

内容	人数	%
困っている方を早期に把握できた	5	11.6
困っている方の援助につながった	8	18.6
孤立している方を早期に把握できた	2	4.7
孤立している方の援助につながった	1	2.3
困ったことがあれば、相談をしてくれるようになった	8	18.6
地域の方々の結びつきが強くなった	2	4.7
地域での他職種間の連携がよくなった	1	2.3
その他	0	0.0



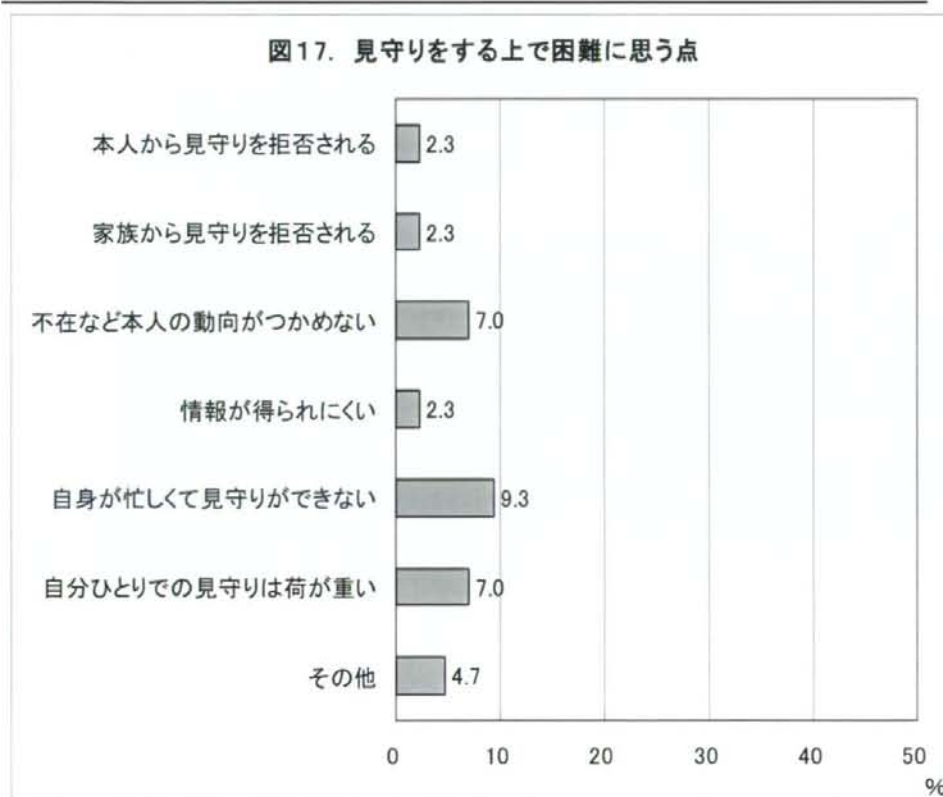
(8)見守りの困難な点

見守りの困難な点は、自分が忙しくて見守りができない、自分ひとりでの見守りは荷が重い、不在など本人の動向がつかめないなどが多くあがっていた。(表 17、図 17)

表 17. 見守りをする上で困難に思う点(複数回答)

内容	人数	%
本人から見守りを拒否される	1	2.3
家族から見守りを拒否される	1	2.3
不在など本人の動向がつかめない	3	7.0
情報が得られにくい	1	2.3
自身が忙しくて見守りができない	4	9.3
自分ひとりでの見守りは荷が重い	3	7.0
その他	2	4.7

図 17. 見守りをする上で困難に思う点

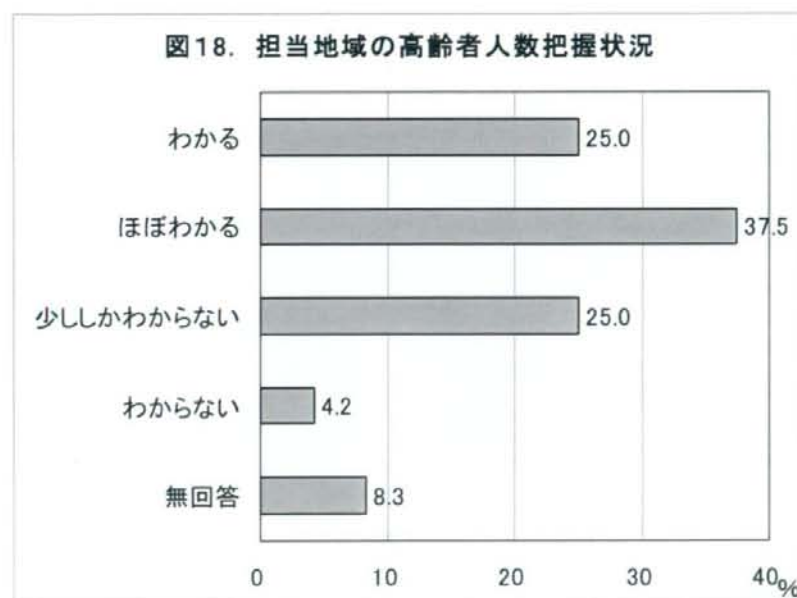


(9) 担当地区の高齢者の人数の把握の有無

担当地区に住んでいる高齢者の人数把握についてみると（表 18、図 18）、「わかる」が 6 人（25.0%）、「ほぼわかる」が 9 人（37.5%）で、この二項目で 6 割を占めている。

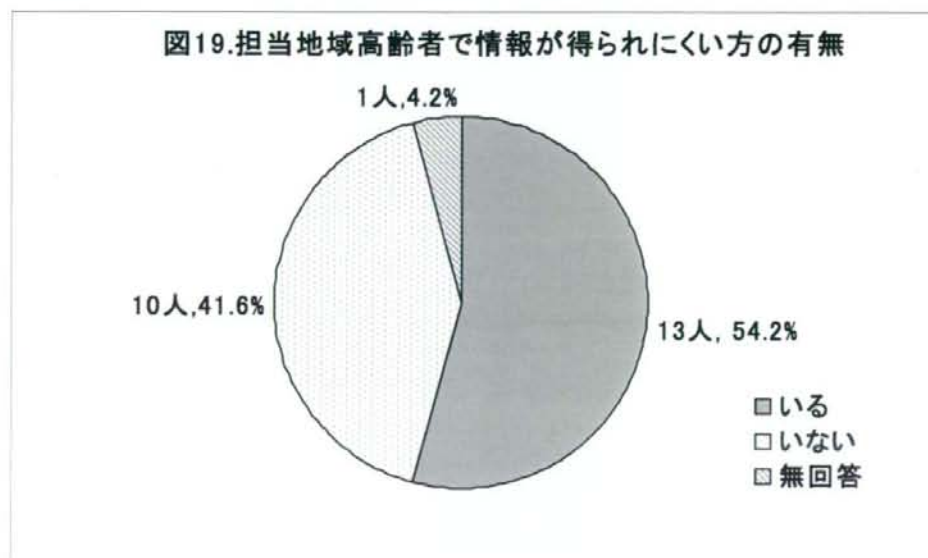
表 18. 担当地域に住んでいる高齢者人数を把握しているか

	人数	%
わかる	6	25.0
ほぼわかる	9	37.5
少ししかわからない	6	25.0
わからない	1	4.2
無回答	2	8.3
合計	24	100



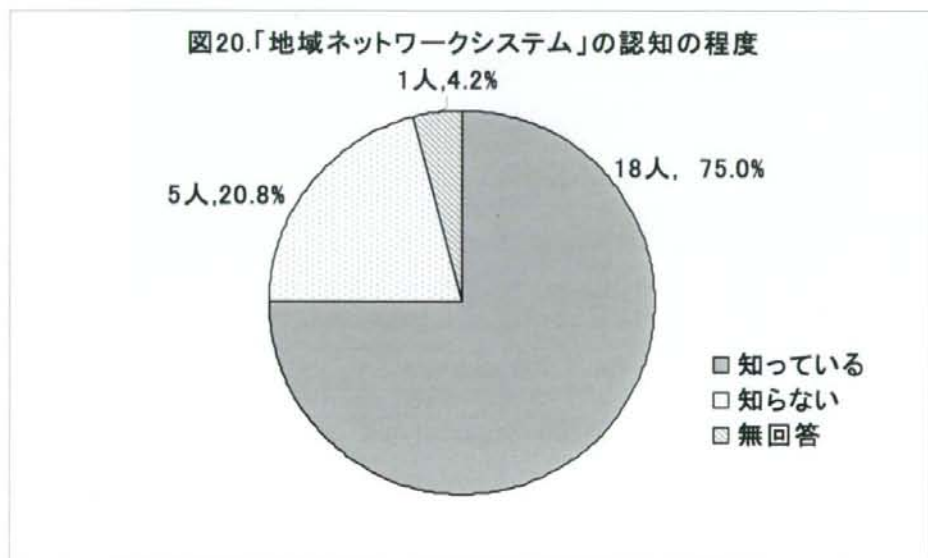
(10)担当地区の高齢者で情報が得られにくい方の有無

担当地区の高齢者で情報が得られにくい方の有無をみると(図19)、「いる」と答えたものが13人(54.2%)、「いない」と答えたものが10人(41.6%)であった。「無回答」は1人(4.2%)であった。



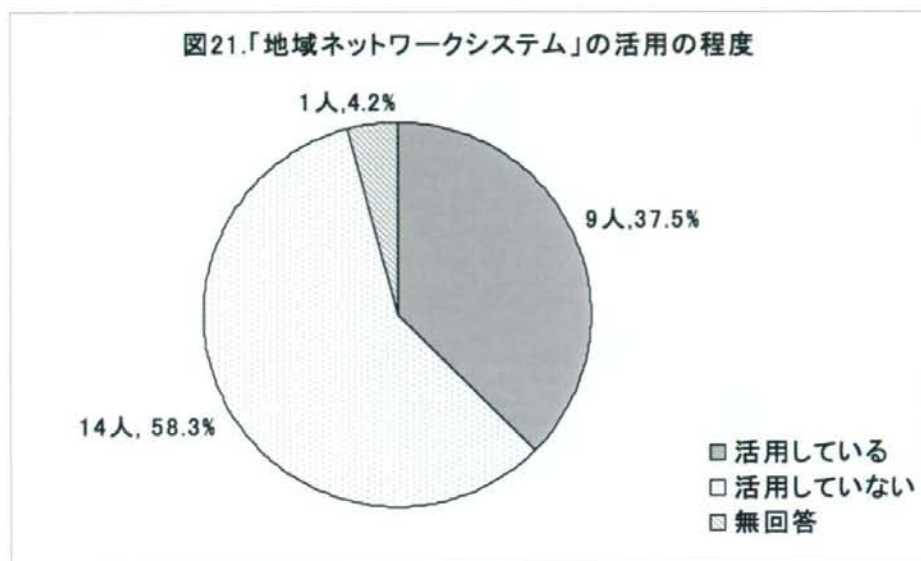
(11)地域のネットワークシステムの認知の程度

地域ネットワーク(高齢者のふれあい・世代間交流・個別支援等)の認知の程度は、「知っている」が18人(75.0%)、「知らない」が5人(20.8%)であった(図20)。



(12)地域のネットワークシステム」の活用の程度

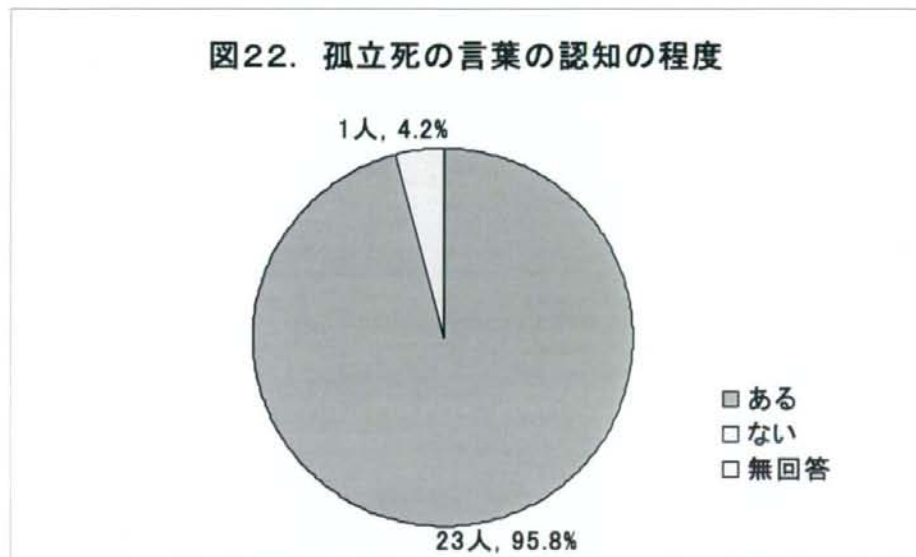
地域のネットワークシステムの活用の程度は、約4割が活用していると回答していた（図21）。



5) 孤立死の状況

(1) 孤立死の言葉の認知の程度

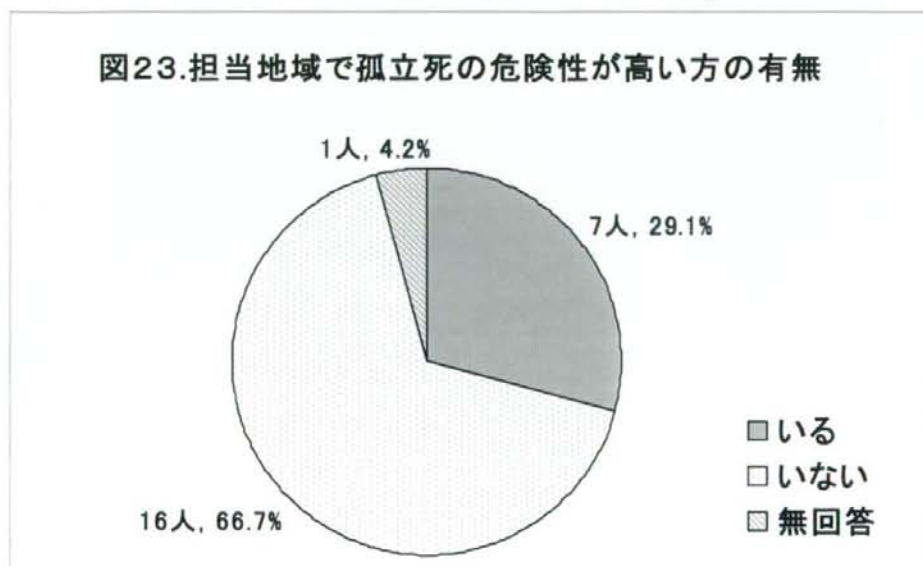
「孤立死という言葉を知っているか」という問いに対し、「ある」と答えたものは 23 人 (95.8%) で約 9 割強が聞いたことがあると答えた (図 22)



(2) 担当地区で孤立死の危険性が高いと考えられる方の有無

① 有無

「担当地域に孤立死する危険性が高いと考えられる方はいるか」という問いに対し、「いる」と答えたものは 7 人 (29.1%) で「いない」と答えたものは 16 人 (66.7%)、「無回答」は 1 人 (4.2%) であり (図 23)、3 割が危険性の高い人がいると回答。



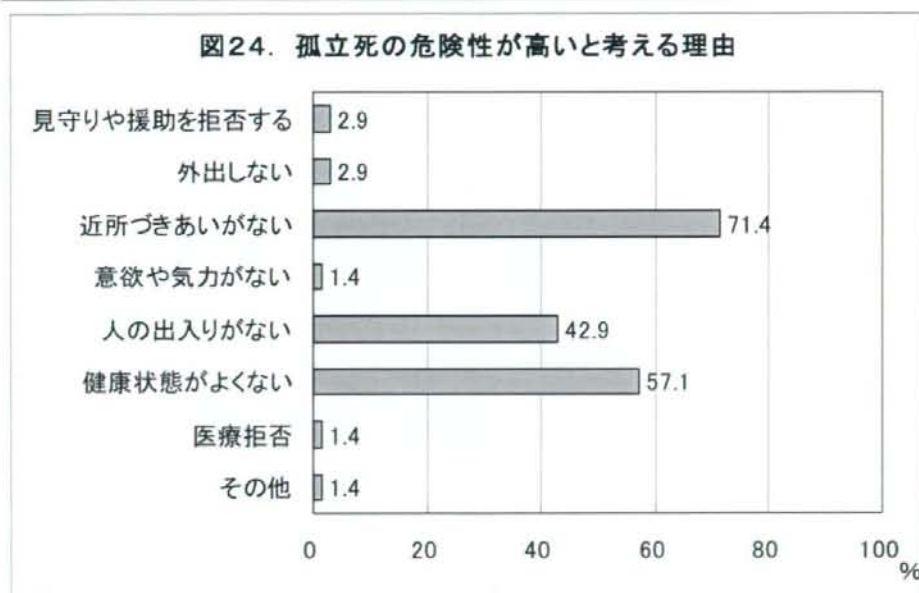
②理由

①において、孤立死の危険性が高いと思った理由として表 19、図 24 をみると、健康状態がよくないことよりも、近所付き合いがないことや、人の出入りがない、ことが孤立死のハイリスクと認識されていることがわかる。

表 19. 孤立死の危険性が高いと考える理由(複数回答)

項目	人数	%
見守りや援助を拒否する	2	2.9
外出しない	2	2.9
近所づきあいがない	5	71.4
意欲や気力がない	1	1.4
人の出入りがない	3	42.9
健康状態がよくない	4	57.1
医療拒否	1	1.4
その他	1	1.4

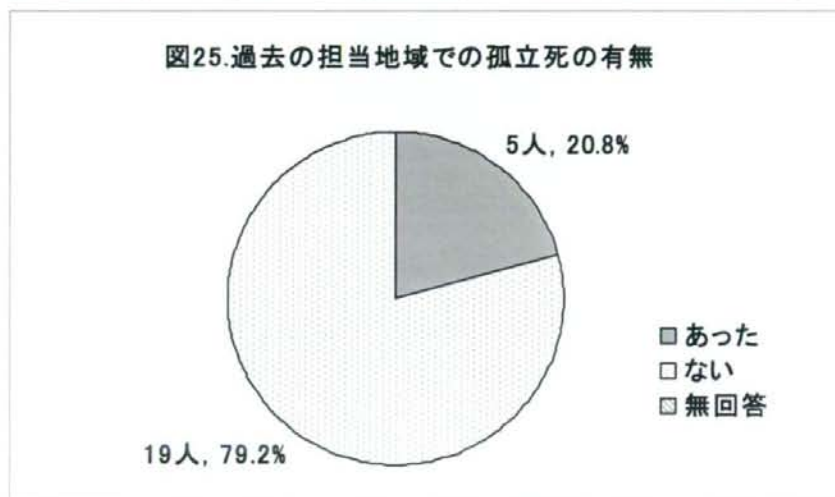
図 24. 孤立死の危険性が高いと考える理由



(3)過去の担当地区での孤立死の有無

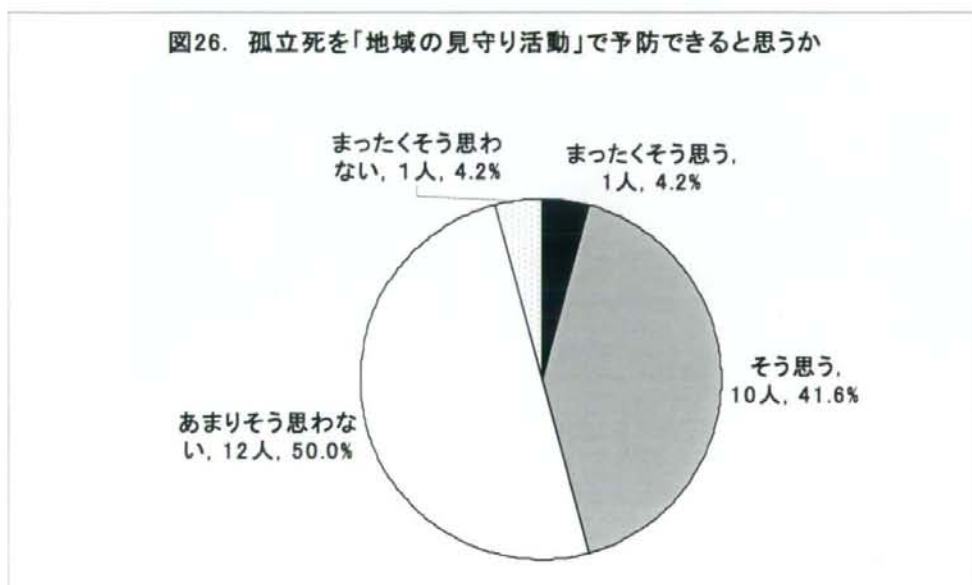
①有無

「過去に担当地域で孤立死があったか」という問いに対し、「あった」と答えたものが 5 人 (20.8%)、「ない」と答えたものが 19 人 (79.2%) であった (図 25)。



(4)孤立死の地域見守り活動での予防の可能性の有無

「孤立死を『地域の見守り活動』で防げるか」という問いに対し、「まったくそう思う」と「そう思う」で 11 人 (45.8%) 「あまりそう思わない」と「まったくそう思わない」で 13 人 (54.2%) と、二分されていた (図 26)。



(5) 孤立死を防ぐための方法の提案や意見

① 家族や本人ができること

家族・親戚との連絡が最も多かった（表 20）。

表 20. 孤立死を防ぐため家族や本人が出来ること

内容	人数	%
家族・親戚の訪問や電話など密な連絡	4	16.7
趣味を持つ	1	4.2
民生委員・行政・近所への相談や依頼	2	8.3
近所付き合いや積極的な行事・会への参加	4	16.7
自分から「元気である」「助けて」等のサインを出す	2	8.3
個人情報保護を主張しすぎない等	0	0
その他	1	4.2
無回答	10	41.6
合計		100

② 地域でできること

見守り活動よりも、身近な隣近所等の注意等が多かった（表 21）。

表 21. 孤立死を防ぐため地域で出来ること

内容	人数	%
見守り活動	2	8.3
隣近所の人や地域住民の注意・声掛け・協力	3	12.5
福祉委員や自治会、近隣との協力	2	8.3
小地域ネットワークづくり	1	4.2
積極的に訪問・声掛け(回数を増やす)	1	4.2
地域活動への参加を促す	1	4.2
本人の生活感や動きを視る	2	8.3
現状に限界がある	0	0
その他	0	0
無回答	10	41.6
合計	24	100